

木曾路の紅葉と奈良井宿を訪ねて

長野支部長 内藤 光 春

令和6年11月7日、支部恒例の小旅行は「木曾路の紅葉と奈良井宿を訪ねて」を実施した。島崎藤村が小説の中で「木曾路は全て山の中」と云うようにその山々は紅葉に彩られ私たち一行を迎えてくれた。

奈良井宿では、江戸時代のたたずまいをそのまま残し参勤交代の宿場として栄え、旅人の為の旅籠や茶屋が建ち並び、旅人達が行き交う往時が偲ばれた。

しかし平日にもかかわらず外国の人を含め観光客の多いのには驚きました。

次に奈良井宿からそう遠くない所にある「木曾義仲館」に行った。平安時代の末期、倶利伽羅合戦はじめ平家軍との戦いを制し一時は征討大將軍になるも、源頼朝の命を受けた義経に討たれたがその活躍は木曾の英雄と崇められている。

次に、まだ15時頃なので寝覚めの床まで足を延ばしてみた。

木曾八景の一つで歌人、俳人が数々の歌を詠み又、なぜか浦島太郎の伝説で知られている、木曾川の奇岩とエメラルドグリーンの水面が美しい名勝である。着いた頃、陽は西に傾き寒さを感じる様になり展望台から観るにとどめ帰路についた。

出発地の長野駅には18時頃帰着し、次回は電車に乗って日本海のおいしい魚を食べに行こうとの声が上がリ、次回の再開を期し帰宅の途についた。

参加者:小坂・工藤・小宮山・伊部・小池・内藤 (順不同敬称略)

以上



左から：小池・小坂・内藤・小宮山・伊部・工藤



左から：小池・小坂・工藤・内藤・伊部・小宮山